

1 後縦隔に発生した骨髄脂肪腫の1例

2
3 岩井優 小野寺清隆 鈴木学 米川球恵

4 山田千裕 小木義貴 大木昌二

5 (千葉大学医学部附属病院病理部)

6
7 【はじめに】骨髄脂肪腫は成熟脂肪細胞と正常骨髄
8 系細胞からなる良性腫瘍で、副腎皮質に発生するこ
9 とが最も多い。副腎外では後腹膜の仙骨前面や腎周
10 囲の発生例が多いが、縦隔への発生は非常に稀であ
11 る。今回我々は後縦隔に発生した本症の1例を経験
12 したので報告する。

13 【症例】60歳代、男性。20XX年7月頃より背部痛が
14 出現し、前医より精査目的に当院消化器内科へ紹介
15 された。胸部CTにてTh9・10右側に径24mmの後縦
16 隔腫瘍を認めたため、手術目的に20XX年9月に呼吸
17 器外科に紹介され、12月に手術が行われた。

18 【肉眼所見】Th9・10付近の右後縦隔より切除され
19 た摘出検体は大きさ28×24×12mm、重さ4.3gで、
20 10×9×5mm大の褐色充実性の境界明瞭な腫瘤の形
21 成を認めた。腫瘤は単発性で、周囲の脂肪織はやや
22 分葉状であった。

23 【腫瘍捺印細胞像】赤血球、好中球、リンパ球と共
24 に好酸球が目立ち、好塩基性の細胞質に大型の核を
25 有する細胞、核の分葉傾向や多核化を示す細胞が認
26 められた。細胞像としては多彩だがホジキンリンパ
27 腫などの可能性も否定できず、class と判定した。

28 【組織学的所見】脂肪織内に、線維性被膜に被包さ
29 れた多結節性の腫瘤性病変を認めた。被膜内では脂
30 肪細胞と混和して造血巣が認められた。正常の骨髄
31 造血巣と同様に、多数の巨核球、赤芽球島を含む三
32 系統の芽球細胞を認め、また成熟分化した顆粒球系
33 細胞を認めた。

34 【まとめ】後縦隔に発生した骨髄脂肪腫を経験した。
35 本症は稀であるが、脂肪組織と顆粒球系、赤芽球系、
36 巨核球系の三系統の細胞を認める特徴的な所見を呈
37 するため、肉眼所見と合わせて注意深く観察する必
38 要があると考えられる。